

第1回九都県市合同防災訓練・域内応援図上訓練

県隊友会も検証班として参加

千葉県庁は、10月19日（金）、「九都県市災害時相互応援協定」に基づく九都県市域内での応援・受援体制の構築及び域内応援マニュアルの検証、並びに千葉県庁災害担当部局職員の災害対応能力の向上を目的に図上訓練を行った。訓練には、主たる訓練対象である千葉県災害対策本部事務局員に加え、消防、警察、自衛隊、海上保安庁、市川市、松戸市、柏市、浦安市、民間会社（トラック協会、倉庫協会、コンビニ各社など）がコントローラー（状況付与）とプレイヤー（訓練実施者）に分かれて参加した。訓練は、19日4時、埼玉県・千葉県境直下でマグニチュード7.3の地震が発生したとの想定で、地震発生6時間後の10時から15時までの対応を時間軸1対1で演練した。次々に死傷者、倒壊家屋、火災、道路・鉄道・港湾損傷などの被害状況が付与され、市町村などから上がってくるこれら情報を情報班が集約・統合し、各班に提供、応急対策班を始めとする各班は、警察、消防、自衛隊等の実動部隊の運用や航空運用要領、物資支援要領及び応援職員の派遣など有機的・活動の練度向上を図った。また、警察・消防・自衛隊・海保、トラック協会等は、自隊で得た情報、部隊運用、運用状況などを随時、提供し、県としての状況判断に寄与した。



、応急対策、航空運用調整、物資支援」の処置・活動状況を随時、検証し、助言を与えるとともに所見を提出し、本図上訓練を支援した。【県事務局】

木更津駐屯地創立50周年記念行事・第46回木更津航空祭 予定を変更して開催

9月9日（日）、8時半から予定されていた記念行事・航空祭は、9月6日未明発生した北海道胆振東部地震災害派遣対応のため、体験搭乗を含む駐屯地開放、音楽隊演奏、祝賀編隊飛行は中止され、招待者のみの記念会食が行われた。地震発生後、陸上総隊司令官の命を受けた第1ヘリコプター団（酒井秀典陸将補）は、直ちに第105飛行隊のCH-47ヘリ4機、人員30名を北海道に派遣、災害派遣部隊・人員・物資の空輸任務に当たった。航空祭は、地元と部隊の相互理解と信頼関係構築のために開始され、今では、数万人が来場する木更津の大イベントになっている。



記念式典 国旗入場

10月20日（土）、10時から櫻田義孝・白須賀貴樹各衆議院議員代理、佐藤正久・宇都隆史・豊田俊郎・元榮太一郎各参議院議員代理、秋山浩保市長、清水聖士鎌ヶ谷市長、白井市長代理、印西市長代理、中田・石井・阿部各県議等来賓多数を迎え、記念式典が行われた。その後、P-3C祝賀飛行、陸自高射学校音楽隊・海自部隊による観閲行進、T-5特別曲技飛行展示が行われた。この他、基地内では航空機見学、体験搭乗などがあり多くの市民で賑わった。基地内食堂で行われた午餐会には、記念日実行委員長の下総教育航空群司令福島博一等海佐をはじめとする県内の駐屯地・基地指揮官多数も

下総基地開設59周年記念行事

10月20日（土）、10時から櫻田義孝・白須賀貴樹各衆議院議員代理、佐藤正久・宇都隆史・豊田俊郎・元榮太一郎各参議院議員代理、秋山浩保市長、清水聖士鎌ヶ谷市長、白井市長代理、印西市長代理、中田・石井・阿部各県議等来賓多数を迎え、記念式典が行われた。その後、P-3C祝賀飛行、陸自高射学校音楽隊・海自部隊による観閲行進、T-5特別曲技飛行展示が行われた。この他、基地内では航空機見学、体験搭乗などがあり多くの市民で賑わった。基地内食堂で行われた午餐会には、記念日実行委員長の下総教育航空群司令福島博一等海佐をはじめとする県内の駐屯地・基地指揮官多数も



参加し、来賓及び下総水交会・海自OB会など自衛隊協力団体の皆様と楽しく懇談した。県隊友会からは、安達副会長（公長代理）、大瀬戸・三浦・金子・宮越各理事役、河西監事役及び満園沼南・阿比留留・豊嶋我孫子・金井市川各支部長ほか基地近傍の会員多数が参加した。【県監事役 河西伸人】

東葛地区支部連合会総会

地区支部連合会の解散を決定

9月9日（日）、10時20分から松戸駐屯地厚生センターにて正会員44名が参加。29事業報告などを承認した後、東葛地区支部連合会について、存続か解散かについて討議し、全参加会員の採決の結果、解散と決定した。今後は支部（松戸、鎌ヶ谷、柏、流山、野田、我孫子各支部）毎の活動に移行する。続いて、陸自需品学部長兼松戸駐屯地司令 上田和幹陸将補の講演「陸上自衛隊の体制改革の現状と今後の取り組み」を聴講した。

懇親会は12時から隊員クラブに場を移し、櫻田義孝衆議院議員、清水聖士鎌ヶ谷市長、秋山浩保市長、牧野英之松戸市副市長、河上茂県議、小沢曉民松戸市議、上橋泉柏市議、渡辺博道・齋藤健・白須賀貴樹各衆議院議員秘書、上田需品学学部長、草間幸弘関東補給処松戸支処長など来賓16名を迎え、会員40名と賑やかに懇談した。【東葛地区支部連合会会長 豊嶋尉史】

【事務所 開所時間】
月・火・水・金曜日
1000～1500 山田理事役

隊友千葉だより

平成30年11月号 (No. 56) 千葉県隊友会事務局

〒260-0042 千葉県千葉市中央区椿森1丁目26-9コンラッドビル4階 電話 043-306-2095 FAX 043-306-2096
電子メール chibataiyuu@angel.ocn.ne.jp ホームページ http://www.chibataiyuu.com/

平成30年度自衛隊記念日観閲式 安倍内閣総理大臣訓示



この朝霞の地で、私自身3度目となる観閲式に臨み、士気旺盛な隊員諸君の勇姿に接することができ、大変うれしく思います。

冒頭、この夏に相次いだ自然災害によりお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りします。被災された

全ての皆様に、心よのお見舞いを申し上げます。現場には、必ず、諸君たちの姿がありました。民家が土砂に押し潰されている。土砂崩れの一報に、隊員たちは、倒木を乗り越え、ぬかるみに足をとられながらも、休むことなく歩き続けました。体力の限界が近づくと、立ち尽くす御家族を前に、最後の気力を振り絞り、全員を救出した。さすが自衛隊。被災者の方々にそう言っていただけの能力、そして、何よりも、その志の高さを、改めて証明してくれました。

自衛隊の災害派遣実績は、実に4万回を超えています。自然災害だけではありません。悪天候で交通手段が断たれてしまう離島において、患者の命を救うには、一刻の猶予もない。こうした中での緊急輸送は、正に、国民の命綱です。

「緊急搬送要請あり。直ちに出勤せよ。」

11年前。一人の女性の容態が急変し、危険な状態に陥っているとの一報が、那覇駐屯地に入電しました。建村善知（たてむらよしとも）一等陸佐率いる4人のクルーは、躊躇なくヘリに飛び乗り、鹿児島県徳之島に向けて、漆黒の闇が広がる空へと飛び立っていました。現地は、一面の濃霧が広がり、着地目標のグランドは、視界不良。垂れ込めた雲が進入を阻みま

した。「あと一度、進入を試みる。」容態は一刻を争う状況の下で、建村一等陸佐は、これまでの4、800時間を超える飛行経験と自衛官人生の全てを傾け、着陸に挑み続けました。地上の管制官に、近隣の徳之島空港への着陸調整を依頼するなど、最後まで決して諦めませんでした。これにこたえ、地上にいる隊員たちも、最善を尽くしました。

「ありがとう」管制官への感謝の言葉が最後となりました。4人が再び基地に戻ることはなかった。建村一等陸佐は、かつて、部下の隊員たちに、こう語っていたさうであります。「自分たちがやらなければ、誰がやる。」

全国25万人の隊員一人一人の、高い使命感、強い責任感によって、日本は、日本国民は、守られている。事に臨んで危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえる。諸君の崇高なる覚悟に、改めて、心から敬意を表します。

24時間、365日。国民の命と平和を守るため、極度の緊張感の中、最前線で警戒監視にあたり、スクランブル発進を行う隊員たちが、今、この瞬間も日本の広大な海と空を守っています。

我が国の平和を守り、アジア・太平洋の平和と繁栄の礎を築く。北朝鮮に関する国連安保理決議の完全な履行を果たしていくために、米国、イギリス、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドといった同志国と手を携え、瀬取り防止のための警戒監視活動に当たっています。自らの意思でこの困難な道に進んでくれた諸君。



ただひたすら国民のため、献身的に職務を遂行する諸君は、日本の誇りであり、領土・領海・領空、その国民の生命・財産を守り抜く。政府の最も重要な責務です。安全保障政策の根幹は、自らが行う継続的な努力であり、立ち止まることは許されません。

この5年余りの間に、我が国を取り巻く安全保障環境は、格段に速いスピードで不確実性を増し、厳しいものとなりました。今や、安全保障のパラダイムは大きく転換しつつあります。宇宙、サイバー、電磁波といった新たな分野で競争優位を確立できなければ、これからこの国を守り抜くことはできません。

この冬に策定する新たな防衛大綱では、これまでの延長線上ではない、数十年先の未来の礎となる、防衛力の在るべき姿を示します。日々刻々と変化する、国際情勢や技術の動向に目を凝らし、これまでのやり方や考え方に安住せず、それぞれの持ち場で、在るべき姿に向かって、不断の努力を重ねていってください。

私は、自衛隊の最高指揮官として、諸君と共に、国民の命と平和な暮らしを守り抜き、次の世代に引き継いでいく。そのために全力を尽くす覚悟です。

我が国の平和は、一国で守りきれぬものではありません。積極的平和主義の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄に、日本ならではのやり方で、これまで以上に貢献していく決意であります。

マグニチュード7.4の大地震と津波の被害を受けたインドネシアでは、C-130輸送機で現地に駆けつけた49名の隊員たちが、今も、被災された方々の命をつなぐ活動を行っています。

ソマリア沖・アデン湾では、国際社会の平和と繁栄のため、他国の部隊と力を合わせ、全力で、シーレーンの安全確保に当たっています。

灼（しやく）熱のケニアでは、アフリカ各国のPKO派遣部隊の訓練に汗を流す隊員たちがいます。

シエラレオネから参加した女性もいます。今は、アフリカの他の国々の困つくりの支援に積極的なこの国も、少し前までは、同じ国民同士が戦う激しい内戦が続いていました。その最前線にあって、彼女は銃を取る他なかった。兵士として戦いに参加してきました。ケニアにやってきました。彼女は、自衛隊の指導の下、まず、文字の読み書きから始めました。様々なことを学ぶ中で、クレーンの重機操作も上達しました。いよいよ母国へと戻るその日、彼女はこう語ったそうでありました。「平和に貢献できることが、本当にうれしい。」彼女を始め参加者たちが、日本から学んだ技術を基に、道路や橋を築く。やがて、通りには多くの人が行き交い、子供たちの笑顔があふれるでしょう。自衛隊がアフリカの大地に植えた平和の苗は、やがて大輪の花を咲かせるに違いありません。彼らは、アフリカの平和な未来を背負って(しよって)立ち、共に、世界の平和と繁栄を守ってくれるはずで、その大きな誇りを胸に、諸君には、国際社会の平和と安定に向けて、これからも、一層、力を尽くしてほしい。大いに、期待しています。

今や、国民の9割は、敬意をもって、自衛隊を認めています。60年を超える歩みの中で、自衛隊の存在は、かつては、厳しい目で見られた時もありました。それでも、歯を食いしばり、ただひたすらに、その職務を全うしてきた。正に、諸君自身の手で、信頼を勝ち得たのであります。

次は、政治がその役割をしっかり果たしていかなければならない。全ての自衛隊員が、強い誇りを持って任務を全うできる環境を整える。これは、今を生きる政治家の責任であります。

私はその責任をしっかりと果たしていく決意です。御家族の皆様。日々の訓練はもとより、厳しい状況の下でも、勇気を奮い立たせ、高い使命感を持って任務を遂行していく。その拠(よ)り所は、御家族の皆様方にほかなりません。大切な伴侶やお子様、お父さん、お母さんを、隊員として送り出してくださっていることに、最高指揮官として、心から感謝申し上げます。隊員諸君。私と日本国民は、常に、自衛隊と共にある。その誇りを胸に、自衛隊の果たすべき役割を全うしてください。自らの職務の重要性に思いを致し、気骨を持って、日本と世界の平和と安定のために、ますます精励されることを切に望み、私の訓示いたします。

平成30年10月14日 自衛隊最高指揮官 内閣総理大臣 安倍 晋三

第45回隊友会中央防衛セミナー

10月4日(木)、午後、損保ジャパン日本興亜大会議室(新宿)において、三浦瑠麗氏(国際政治学者・東京大学政策ビジョン研究センター講師)及び富阪聰氏(ジャーナリスト・拓殖大学教授)の2氏を講師に迎えて開催された。メディア露出度の高い両氏、会場は近年にない満員の盛況であった。

三浦氏は「安全保障環境の変化とわが国の進路」と題し、「トランプ大統領就任後の国内外政策」や「ポスト冷戦後の2極でも単極でもない多極の新・勢力均衡の世界情勢」などを踏まえ、米国の世界戦略からの退潮が



もっと大きい安全保障環境の変化であると結論付け、過度に他国に依存しない自主防衛力構築の必要性を訴えた。かつて中国の核実験成功、中台の



緊張に誰も驚かなかった。それは、米国の後ろ盾を国民が信じていたからで、今、米国が「無駄な介入はしない。同盟国を優遇しない。」政策を前面に押し出し、自国優先になっているから中国の軍拡や北朝鮮の核武装に国民は脅威を感じていると述べた。この他、メディアとは異なる独自手法による世論調査により、絶対平和主義者は国民の4分の1いるが、それは高齢者に多いなど示した。また、安全保障論議は、これまでの9条(戦力不保持)からスタートするのではなく、我が国への脅威分析からスタートし、最後に9条の網をかぶせ、あるべき姿を模索するスタイルに変えるべき。自衛官に発言の機会を与える正しいシシリアンコメントのあり方など、興味ある話を多々紹介された。

富阪氏は「習近平政権の今後の行方」と題し、習近平は、2012年危機、それまでの発展モデル(オールドエコノミー)の衰退と格差問題の深刻化という厳しい時期に政権の座に就き、そこから大改革を断行し、今、中国は大変革を迎えている。日本も中国に遅れてはならないとユーモアを交え話された。5年間、毎日880人の党員を処

分するといふ徹底した反腐敗闘争や2大タブーと言われた国有企業改革と軍改革、無駄な企業は潰す、トップ2人を逮捕するなど軍の腐敗を容赦なく正した。併せて各分野に指導小組という新しい組織を作り、自らそのトップに就任し改革を推進している。経済では、ニューエコノミーと称し、スマホ決済革命やシェア革命がすごい速さで進行している。欲しいものをスマホで撮影、送信すれば、次の日、決済も自動的に終わって自分の所に届く。普段、使用しない自分のネクタイでも登録すれば、他の人とシェアできる。自動車も使いたい時期・場所でも自由にシェアできる。徹底した監視カメラ社会での犯罪抑止、徹底した電気自動車社会など、これらは、産業構造の大変革を促す。大学生も一攫千金を夢見て新アプリの開発や起業に夢中で大変、活気がある。これに対し日本では、全てものが、いいレベルでのサービスを受けられる。お札や車も大変いい。また日本で監視カメラ社会なんて言ったら2年でも3年でも議論することになるなど変革を遅らせる要因が多い。中国は多くの問題点を抱え、良くない面もあるが、いいものは、どんどん取り入れていかないと、今のままでは、産業を含め日本はどんどん衰退していくと警鐘を鳴らした。

【文責 事務局】

30年9月・10月入会者

- 入会感謝・隊友会の発展にご協力を
- 【敬称略・順不同】
- 【市原】 清水 宏一(陸)
 - 【市川】 岸上 尚洋(陸)
 - 【八千代】 浅利 修(陸)
 - 【習志野】 白石 重徳(陸)
 - 【船橋】 梅木 俊洋(陸)
 - 【四街道】 野々下 章(陸)
 - 【千葉若葉】 水尾 壽一郎(陸)
 - 【千葉若葉】 高梨 弘治(陸)
 - 【沼南】 小林 敏(海)
 - 【木更津】 浅井 昇(陸)
 - 【白井】 福島 秀明(陸)
 - 【習志野】 植木 一生(陸)
 - 【柏】 圓藤 春喜(陸)
 - 【船橋】 津久井 建美(空)
 - 【館山】 野呂 定夫(海)
 - 【野田】 濱田 良昭(海)
 - 【八千代】 柳葉 繁(空)
 - 【佐倉】 若松 博(空)
 - ◇瑞宝双光章
 - 【山武東金】 宮本 年明(海)
 - 【館山】 北岡 明(海)
 - 【安房】 高橋 義博(海)

秋の叙勲受章おめでとうございます

【敬称略・順不同】

- 【沼南】 田崎 美智男(海)
- 【長生】 畑 俊之(海)
- 【四街道】 正木 新市(陸)
- 【千葉若葉】 山田 英嗣(陸)
- 【館山】 吉田 安宏(海)
- ◇瑞宝単光章
- 【沼南】 谷口 敦(海)
- 【千葉花見川】 土田 満信(陸)

千葉県殉職自衛隊員追悼施設「鎮の庭」を整備

県隊友会は、10月24日(水)、陸自下志津駐屯内「鎮の庭」の整備支援を四街道、千葉若葉、船橋、木更津、市原、八街、市川、白井の各支部及び県本部からの参加者29名で行った。8時30分、全員集合して本事業の計画責任者である筒井理事役の点呼を受けた後、作業組分・指示・安全確認に続き、整備作業を開始、高射学校の現役隊員とともに樹木剪定・枝落とし・清掃を行い、途中、会食・休憩をはさんで15時30分に概成し、終了した。今年も高射学校総務部長による参加者全員の昼食会を催して頂き感謝。



県護国神社 秋季大祭奉仕

千葉県護国神社は、戊辰の役から大東亜戦争に至るまで、国事困難に列せられた千葉県出身並びに縁故ある方々の英霊を奉斎しており、現在の合祓祭神は5万7千余柱である。

毎年2回、千葉県隊友会が実施している千葉県護国神社春季及び秋季大祭に対する奉仕活動は、神社関係者やご遺族から感謝され、また奉仕者数も安定し、千葉県隊友会の主要事業として定着している。

今回、秋季大祭で実施した奉仕内容は次のとおりで、奉仕者数は、清掃35名、車両統制15名の合計50名であった。

◆10月7日(日)8時~11時30分 境内の清掃

川村館山支部を始め、千葉美浜、船橋、市原、沼南、山武東金、市川、松戸、八街の各支部会員に参加頂いた。初参加の柏支部 鈴木会、沼南支部 渡辺会員、八街支部 遠藤会員には大いに活躍して頂き感謝。また、千葉県郷友会から、鈴木会長以下10名が参加された。10月1日、関東地区を縦断した台風24号の暴風雨により、護国神社は境内通路のトタン屋根が飛散したり、周囲の桜の木々がなぎ倒される被害を受けていた。当日も台風25号の接近が心配されましたが、すっかり晴れ渡り、早朝から気温がどんどん上昇し、31度に達する猛暑となりましたが、早め到着した会員から手際良く作業は始められた。休憩時間で



は、参加者総員で飲み物と菓子を用意、恒例となった参加者の自己紹介、歓談など会員相互の親睦が図られた。また、立花権禰宣(ごんねき)から、台風24号による被害状況の説明、隊友会、郷友会の奉仕活動のお陰で10日の秋季大祭の準備を一通り進めることができることへのお礼の言葉を頂いた。

◆10月10日(水)7時30分~11時30分 車両統制

秋重市原支部長を始め千葉中央、千葉美浜、市原、沼南、木更津、八街の各支部会員が参加した。市原支部の清水畑会員は初参加で大いに活躍して頂いた。天候に恵まれ、気温は27度、4時間立ちっ放しとなったが、笑顔忘れず誠意を持って車両、参列者の誘導に当たった。

奉仕活動終了後、式典に参列した安達副会長から、式典において竹中宮司から台風24号の被害に対し、千葉県隊友会の復旧支援を頂き、無事に大祭を挙げる事ができたとの紹介があったと参加者に伝えられた。お神酒を頂いた後、恒例となった参加者の自己紹介、歓談など会員相互の親睦が図られ、最後に、竹中宮司を囲んで記念写真を撮った。

次回の平成31年春季大祭も会員皆さんのご奉仕を宜しくお願います。初心者の方、年齢を問わず大歓迎です。

【県護国神社担当 理事役 三浦洋】

